

②伝えよう花輪の歴史文化

まち環境班 六日町グループ

○加藤辰彦・B4 新田裕磨・M2 千葉遙・M1

木村洋子・B3 佐藤直樹・B3

(○はグループ長)

■現状把握

鹿角市花輪地域は、花輪ばやしや酒などの特徴的な資源が多く見られる。このことから、まち環境班では資源を活かした提案を行うこととし、私たち六日町グループは関善周辺地区を担当することとなった。

関善周辺の特徴は他地区と比べると歴史や文化色が濃いことが挙げられる。特に関善は歴史を感じさせるこの地区の象徴であり、400年続く朝市は花輪の文化を今に伝えている。また、市場付近にある石木田家庭園は故きよき日本の庭園を残している。

以上の魅力的な資源が多くある一方、関善周辺地区には主に以下のような課題が挙げられる。

- ・定期市場は市以外時の利用イメージがなく、閑散としている
- ・統一が関善周辺に限られる
- ・石木田家庭園の開放

これらの課題を意識し、解決できるような提案を行う。

■方針と提案

『現状把握』、『鹿角市花輪まちづくり構想より関善周辺地区は「歴史交流拠点」と位置付けられていること』、『持続的なまちづくり』の3点を踏まえ、提案の方針を『交流の場の提供』、『一体的なにぎわいの創出』、『歴史を活かした魅力的な景観整備』、『住民参加による「わがまち」意識の向上』とし、最終的には関善周辺地区がまちづくりの中心拠点となることを目指す。

提案は大きく分けて3つあり、「定期市場」「石木田家庭園」「エリア全体」となっている。

定期市場では、日中の利用像、夜の利用像、市を盛り上げる工夫について提案した。

日中の利用像は、主に交流の場として利用してもらうというもので具体的にはまち案内板や情報交換掲示板、イス、プランター等を設置し、人が集う場所という性格を強めた。また、シャッターはシャッターアートとして利用し、にぎわいをもたらす。

夜は地域資源（酒、花輪ばやし）を活かし月2回程度の花輪ばやし風屋台での仮設飲み屋街の形成により、夜のイメージを新たにつくることを提案した。

市を盛り上げる工夫としては、ロゴマーク・市場キャラクターの作成、ポイント制の導入、オリジナルエコバック、ブログ等でのネット配信、市場案内板の設置の提案を行った。

石木田家庭園については母屋を華道や茶道などの教室として日本文化を伝える空間として利

用し、庭園は週 1 程度の開放にして緑や日本美に触れる空間として利用することを提案した。

エリア全体の提案としては関善を中心として一体的な整備が求められると感じたので、竹垣プロジェクト、道路の石畳・カラー舗装、緑化を進めることを提案した。なお、竹垣プロジェクトとは住民参加型のプロジェクトで「わがまち」意識の向上に繋がると考える。

■今後の展望

今後の展望としては、今回提案したことによりまちを往来する人が増え、関善周辺にも常人がいるようになることを期待する。また、竹垣プロジェクトなどの住民参加型のまちづくりにより、住民が簡単な景観づくりなどを行い持続的なまちづくりに繋がることを期待する

六日町グループ

関善、定期市場エリア

B₄加藤 辰彦
M₂新田 裕磨
M₁千葉 遥
B₃木村 洋子
B₃佐藤 直樹

1

伝えよう花輪の歴史文化

関善エリア一体化計画

2

目的.

回遊性向上のための拠点強化



中心市街地を再生、活性化させる

3

現状分析.

《定期市場》

- (○) 歴史のある市が立つこみせ空間
- (×) 市のない時には閑散シャッターが寂しい

➡ 市のない時の利用法

《石木田家庭園》

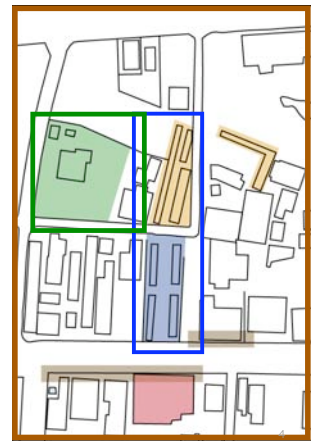
- (○) 立派な庭園
- (×) 高い塀で囲まれ閉鎖的

➡ 庭園を活かした開放

《エリア全体》

- (○) 歴史を感じる空間があるおせどの利用者が多数資源が多い
- (×) 統一が関善周辺に限る

➡ 歴史的雰囲気全体に広げる



方針.

関善周辺エリア：歴史交流拠点

- 交流の場の提供
- 一体的なぎわいの創出
- 歴史を活かした魅力的な景観整備
- 住民参加による「わがまち」意識の向上



歴史文化を伝えていくまちづくりの中心拠点

5

提案

6

提案概要

《定期市場》

- 休憩処
 - ・鑑賞
 - ・交流
 - ・休憩
- シャッターアート
- 仮設の飲み屋街
- 市開催時の工夫

《石木田家庭園》

- 教室
 - ・茶道
 - ・華道
- 庭の開放
 - ・休憩
 - ・鑑賞

《エリア全体》

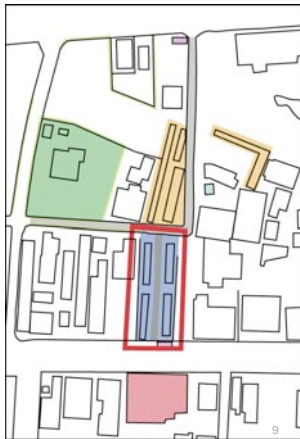
- 竹垣プロジェクト
- 石畳、カラー舗装
- プランターによる緑化



提案 定期市場

8

提案 定期市場 関善側



提案 定期市場 関善側

（課題）市がないときの利用

休憩処

- ・鑑賞の場
 - 作品展示、提灯
- ・交流の場
 - まち案内板、掲示板設置
- ・休憩の場
 - イス等設置、緑化



交流の場が広がり、
改めてまちを知る空間



提案 定期市場 関善側

まち案内板、掲示板



11

提案 定期市場 関善側

（サブ要素）

提灯 一般の人々が作成・コンテスト

イス 市の時に邪魔にならない

プランター（竹）

簡易な緑化からはじめる

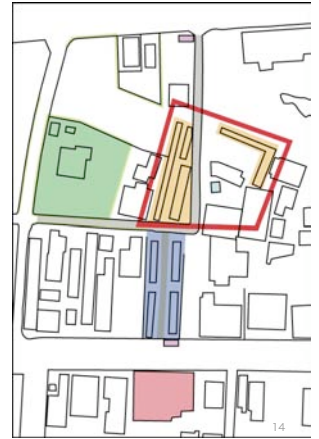


12

提案1 定期市場(関善側).



提案1 定期市場(奥側).



提案1 定期市場(奥側).

(課題) 暗いイメージの払拭
にぎわい創出

花輪にゆかりのある漫画家
高橋陽一 (キャプテン翼)
やくみつる

シャッターアート

- ・話題性
→全国へ発信
- ・個性
→まちの新たな顔
- ・参加型地域交流



新たな魅力、賑わいの創出



提案1 定期市場(奥側).

手法

- ・シャッターに直接絵を描く
- ・住民にも手伝ってもらう



作業現場鑑賞、参加



まちづくり、アートに関心を
持つなどの影響



提案1 定期市場(奥側).



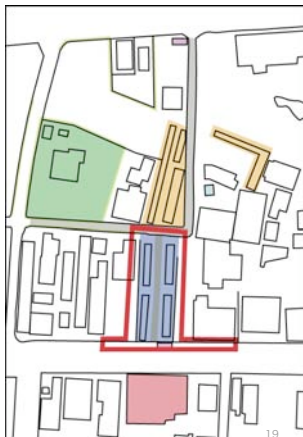
Ver. 高橋陽一

提案1 定期市場(奥側).



Ver. やくみつる

提案1 定期市場(夜).



提案1 定期市場(夜).

(課題) 朝以外のイメージ
酒(地域資源)を活かす

仮設飲み屋街の設置
・新たなイベント
・酒、花輪ばやしのPR
・夜のにぎわい



地域資源を活かし新たなイベント
おはやしのまちとしての再アピール

(開催日案)
3,8のつく日が土、日の前日開催
朝市の観光客を巻き込む



屋台デザインイメージ

にぎわいの象徴→花輪ばやし

祭りでも使用可能

花輪ばやし時以外にも
観光客はミニ花輪ばやしを楽しめる

20

提案1 定期市場(夜).



提案1 定期市場(市開催時).

現在の市を更に盛り上げる工夫

- ・ロゴマーク、市場キャラクター
- ・ポイント制
- ・エコバック
- ・ブログ等のネットの配信
(名産品の紹介)
- ・案内板の設置



情報を伝えやすくリピーターが増える



提案2 石木田家庭園

23

提案2 石木田家庭園.



提案⑦ 石木田家庭園⑦

(課題) 庭園を最大限に活かす⑦

癒し空間⑦

- ・母屋の使用⑦
→ 華道、茶道⑦
- ・庭の通り抜け (市の日に開放) ⑦
→ 日常で緑に触れる ⑦
- ・縁側の開放⑦
→ 日本建築のよさを知る⑦



日常では体験できない空間の演出⑦



提案⑦ 石木田家庭園⑦

母屋

(課題) 庭園を活かした活用⑦

華道、茶道の教室として利用⑦

- ・週1回程度 (朝市の日) ⑦
- ・朝市で花を買い、母屋で活ける⑦



日本文化に触れる場となり⑦
文化継承に繋がる⑦



提案⑦ 石木田家庭園⑦



提案⑦ 石木田家庭園⑦

庭園

(課題) 庭園を荒らさない活用⑦
利用イメージをつくる⑦

市の日のみ開放することで⑦
踏み荒らされないように制御

- ・通り抜けられるようにし、⑦
気軽に緑に触れる空間を確保⑦
- ・読書等の静かな行為をするための⑦
縁側や休憩所を設置



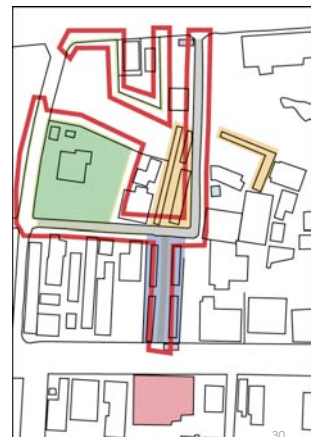
景観整備の手本⑦

市以外の時には外から楽しむことが⑦
できるよう塀の高さを調整



提案⑦ エリア全体

提案⑦ エリア全体⑦



提案3 エリア全体.

(課題) 一体感
わがまち意識向上

竹垣プロジェクト
石畳化、カラー舗装
緑化
→ ・新たな魅力の創出
・住民参加
・一体感



住民の手でまちをつくりあげていく



31

提案3 エリア全体.

竹垣プロジェクト

住民の手により景観整備を行う
わがまち意識の向上

竹垣に変えるための資金を住民に
出してもらったプロジェクト
1本もしくは1㎡当たりで売り
資金出資者は施工に参加可能
竹垣提供者として名前を残す



景観を意識させる

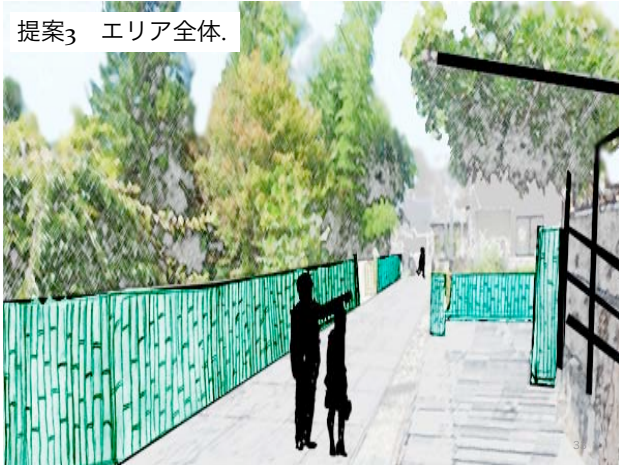


施工方法
全てを竹垣に替える
ブロック塀等に貼り付ける

景観整備ルールブックを作成し
更なる景観形成を促す

32

提案3 エリア全体.



提案3 エリア全体.



まとめ.

提案1 定期市場
《関善側》 休憩処
・掲示板、まち案内板設置
・提灯、作品展示 ・イスの設置
《奥側》 シャッターアート
《夜》 仮設飲み屋街設置

提案2 石木田家庭園
《母屋》 華道、茶道教室開催
《庭園》 休憩場所、通路の整備

提案3 エリア全体
・竹垣プロジェクト ・石畳化等の通路整備
・プランターによる緑化



関善を中心とした一体的な空間となり、
まちづくりの拠点となる

35

fin

36

③それゆけ！花輪探検隊～鹿角花輪市街地サイン計画～

まち環境班・サイン計画担当

伊藤正太・B3 木村洋子・B3 佐藤直樹・B3

■現状把握

まち環境班は、わかりやすい案内板の整備、まち全体でおもてなしの雰囲気づくりをテーマとした提案を行った。

現地調査やヒアリングを実施し、地域の現状を把握した。結果として、電車を利用する観光客が比較的多いことや、中心市街地には関善酒店や道の駅あんたらあ、商店街や寺など多くの観光箇所が点在していることが分かり、まち全体でおもてなしの雰囲気をつくるには統一されたデザインによるサインが必要だと考えた。

■方針と提案

現状把握を踏まえ、提案の方針を決めた。

サイン計画の始点は、電車・車利用者を考慮し鹿角花輪駅、道の駅あんたらあとする

設置は、実際に歩いてみて必要だと感じた地点にする

サインを「駅前パターン」「まちなかパターン」「簡易まちなかパターン」と目的別に用意し、設置地点によって使い分ける

始点には、花輪周辺全体の情報が分かるサインを置き、さらにまち内には道案内や地域情報が分かるサインを設置する

花輪独自性を出すために、地域名物の要素をデザインに取り入れる

デザインについては、固定情報だけではなく地域の催しものにあわせて更新できるように配慮し、サインを見た地域住民や観光客にさらにまちをアピールする。

■期待される成果と今後の展望

期待される成果と今後の展望は、第一に市街地の回遊性が高まることにより、点在している観光箇所を訪れる人が増える。第二に市内で開催される催しものなどの地域情報を知る事ができ、地域の魅力をアピールすることができる。第三に統一されたデザインを配置することで、まち全体にまとまりを生み出す。

サイン計画

まち環境班



目的

- まち全体の回遊性を高めるサイン計画
- まち全体にまとまりを生み出す
- 地域の催しものを告知する



さらなる鹿角市の集客・リピート効果を狙う

01

まち全体の現状分析

- ・「関善酒店」、「あんたらあ」などの観光スポット
- ・商店街や寺、観光箇所が独自で点在



統一されたデザインによる誘導が必要



02

設置計画

1. 鹿角花輪駅、あんたらあを始点とする
2. 実際に歩いてみて必要と感じた地点に設置
3. 三種類のサインを地点によって使い分ける
 - ・駅前パターン
 - ・まちなかパターン
 - ・簡易まちなかパターン



03

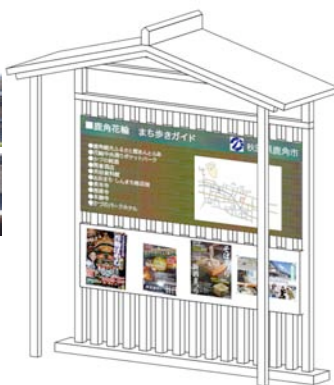
デザイン計画

独自性を出すため、地域名物の要素を取り入れる



1. 鹿角花輪駅
花輪周辺全体の情報がわかるサイン

2. まちなか
道案内や地域情報がわかるサイン



▲鹿角花輪駅、あんたらあの設置サイン

デザイン計画

1. 鹿角花輪駅
花輪周辺全体の情報がわかるサイン

2. まちなか
道案内や地域情報がわかるサイン



04

完成イメージ



(2) 屋敷活用班

①見て！触れて！感じよう！我らが育てる関善屋敷

屋敷活用班 屋敷グループ

○金子 佑・B4 島 淳一・M1 鈴木 結花・B4

小笠原 聡美・B3 北山 絵梨奈・B3

(○はグループ長)

■現状把握

屋敷活用班屋敷グループは、関善酒店の母屋である屋敷を地域活性化の素材として捉え活用像・修復像等の提案を行うことをテーマとした提案を行った。

現地調査を実施し、関善屋敷とNPOの現状を把握した。その結果、屋敷の現状としては、建物正面のこみせ（こもせ）下にチラシや広告が無造作に貼られていること、建物内部では、モノが整理しきれていないこと、展示方法、以上の3点において改善の余地があることが分かった。NPOの現状からは、活動を維持、継続するために資金がより必要なこと、地元の会員が不足していること、以上の2点が分かった。

■方針と提案

現状把握から、屋敷の保存・活用を維持・継続していくために活動資金をより増加させること、地元の人を含めた会員を獲得することが必要不可欠だと考えた。そこで、段階的に活動資金と会員が徐々に改善するように、現在～1、2年後、3～5年後、5年後～、以上のように3段階に分けて提案をした。

現在～1、2年後では、長期的に活動を維持するために、後継者と活動資金を確保するために、「関善に愛着を！」と「関善を知ってもらおう！」という二つのテーマを掲げた。「関善に愛着を！」では、実際に建物に触れる機会があれば、地元の子供も関善に愛着を持ってもらえろと考え、自分たちと同じように関善の修復や掃除を行ってもらおうという提案をした。その子供たちや作業する人をどう呼び込むかを「関善を知ってもらおう！」で呈示した。それは、サポーター制度である。サポーター制度は、NPOの正会員、賛助会員の下に属する新たなサポーターを取り入れるという制度である。修復作業やイベント時にこのサポーターにも情報を提供することで、新たな援助になると考える。また、近隣大学との連携も同じである。大学と連携して活動することでより多くの方に知られるきっかけになる。

他に現在～1、2年後では、趣がある空間にすることによって「こみせ」や「小屋組」などの建物自体の価値向上のために「魅力ある建物に！」というテーマを掲げた。魅力ある建物にするために建物正面の改善、展示方法の改善、手軽にできることの3つを提案した。建物正面の改善では、チラシや広告が無造作に貼られているので、それを改善することで、屋敷の魅力

がさらに伝わる外観になる。展示方法の改善では、展示物にキャプションを付けること、展示を分散し、展示空間に余裕を持たせることで展示空間の雰囲気作りに繋がる。手軽にできることでは、整理しきれていない荷物を隠す方法をイメージで呈示した。これらをすることによって、関善の価値がより向上すると考える。

3～5年後では、上記した提案が土台として固まった上での今後の展望として、「定期的な教室の開催！」を提案した。関善屋敷で教室が定期的に行われることで、新たな 資金の確保にも繋がり、参加した地域住民の交流の場となる。

最後に今後の展望として5年後～では、「工房の開店を！」を提案した。関善を工房として開店することで、地域の新たな魅力になる。また、地域の拠点として賑わうことも想定されます。

■今後の展望

屋敷グループでは、この一連の提案の中で、現在～1、2年後の提案に重きを置いている。この時期に提案した上記の案が充実して、今後の展望として示した定期的な教室の開催！や工房としての開店！が生きて来るはずである。徐々に地元の方に使用され、地元の中で充実することで今後の活用像の幅も広がるであろう。

屋敷活用班

屋敷グループ

奥蔵グループ

そうだ
かづの、
行こう。

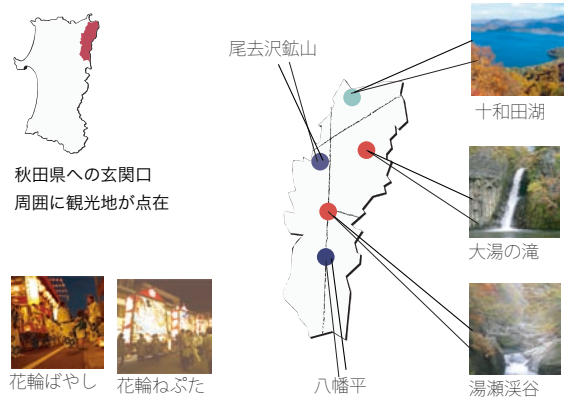
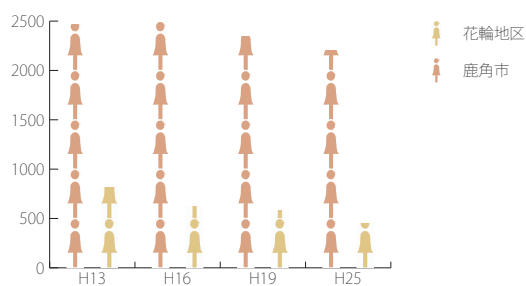


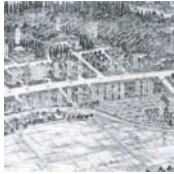
■目的

関善酒店の屋敷と奥蔵を、地域活性化の素材として 捉え
活用像・修復像等の提案を行うこと。

■ 現状分析

・地域人口の減少





古くから続く町

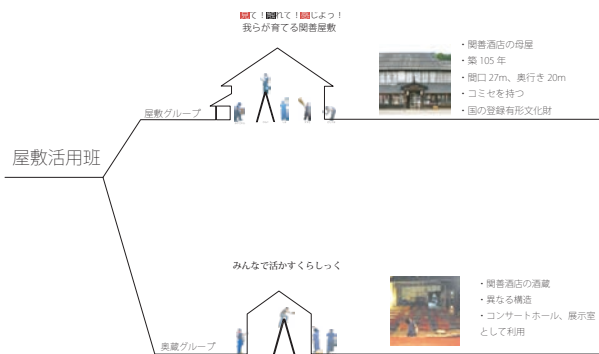


鹿角市まちづくりビジョン歴史交流拠点の整備



■方針

歴史的建築物を活かし、地域の新たな魅力発見の場となることで建物の保存・持続的な活動を目指す。



②みんなで活かすくらしっく

屋敷活用班 奥蔵グループ

○立花葵・M1 佐藤彩夏・M1

上村翔子・B4 渡辺豊・B4

大塚洸・B3

(○はグループ長)

■現状把握

奥蔵グループは、関善屋敷奥蔵と庭の活用及び整備像、奥蔵への誘導につながる通路空間の提案を行った。現地調査と NPO の方の説明から奥蔵とその周辺の現状を把握した。

現在、奥蔵は屋敷母屋を挟んで正面の通りから見えない位置にあり、母屋の土間を通過してアプローチする配置となっている。また、道路拡幅にあわせて曳き家を行った際、庭部分が狭くなってしまっている。

さらに現地調査の結果から、駐車場が奥蔵への通路としての整備が必要な点、庭が屋敷内から眺める場として設計され利用が望まれる点、蔵に当時の雰囲気を残す空間や展示物が残り集客の材料として活用できる点、NPO の方が保存とイベント会場としての利用を求めている点がわかった。

■方針と提案

現状を踏まえ、方針を「奥蔵を活かした風景づくり」、「交流の場提供」、「保存のための体制づくり」とし、提案を「みんなで活かすくらしっく」とした。

整備像と活用の提案を行うにあたり、屋敷グループ同様、内容を取り組みに応じて 1～2 年、3 年後、5 年後に分けた。

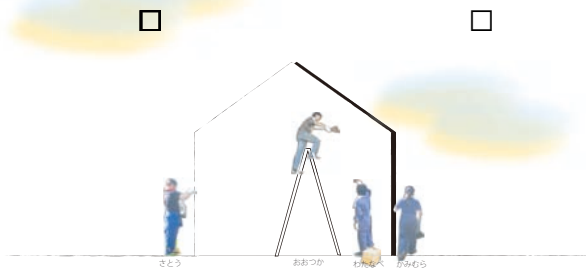
1～2 年間は再生のための取り組みの手始めとして、蔵を本来の姿に戻し、蔵を知るきっかけを作るため、オークションなどでの奥蔵内の展示のための整備、修復体験と広報活動を行うこととした。また、屋敷からのアプローチをつくるため、奥蔵への通路には玉砂利などを敷き小道を用意、入口には簡単な案内板とのれんの設置を考えた。

3 年後には整備が進みつつある奥蔵や庭を活用した取り組みとして、庭と外観の修復と内部の整理を終えた奥蔵利用し、ビアガーデンや上映会など四季に応じたイベントを開催し、定期的な活動資金源を得るために役立てることとした。庭には、敷き石を置き、通路や客席として整備した。

5 年後の取り組みでは、さらなる集客に向けた本格的な取り組みとして、井戸の整備や奥蔵までのこみせ（のデザインを模した通路）、朝市会場から関善屋敷までの歩道設置を提案した。これにより、朝市会場～屋敷母屋～奥蔵という空間の連続性を狙っている。

■今後の展望

まず、手軽にできる奥蔵への誘導を行うことで、屋敷を訪問した人が奥蔵や史料、イベントの存在に気づき、奥蔵との接点が生まれる。将来的に、旅行関連の雑誌に取り上げられるような美しい町並みの一部となることを期待する。



屋敷活用班 奥蔵グループ

立花葵 佐藤彩夏 上村翔子 渡辺豊 大塚洸

「みんなで活かすくらしっく」とは…

みんなで活かす

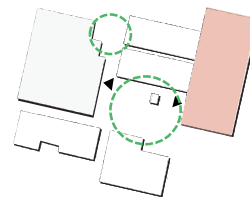
…住民、学生、などが何らかの形で蔵の建物の修復、保存、利用に関わる

くらしっく

…古いだけではない蔵の良さを活かした活用

■調査結果

調査結果



■室内からの眺め

■酒造りの場の遺構

■建築物の現存



調査結果



■多様な展示物

■改修の跡

■利用可能な空間



調査結果から

- ・庭を意識した屋敷の造り
- ・雰囲気のあるイベントスペース
- ・歴史を感じさせる展示物
- ・屋敷と奥蔵を繋ぐ場と酒造りの歴史を感じさせる広場

■方針

方針



拠点 住民 交流 観光 歴史 まちづくり

- 方針
- ・まちづくりの拠点として、地域住民同士の交流の場の提供
 - ・歴史的建物を活かした風景づくり
 - ・保存していくための体制づくり

旧関善酒店の奥蔵と中庭の整備像を提案する。

■提案

活用イメージの概要

・イベントスペース

現在コンサートなどに利用されている蔵や駐車場として利用している中庭を今後さらに様々なイベントを行える場所として活用。

・ギャラリー

蔵に残る歴史的な資料を展示。

屋敷や地区との連携を強化し、住民の活動場所の1つとして機能する場へ

具体的な活用イメージ

調査結果から...

- ・室内からの眺めが絵となるような庭に整備
- ・イベントスペースの雰囲気のある空間を強調、統一
- ・展示スペースは歴史を感じさせる空間に整備
- ・広場を屋敷と奥蔵を繋ぐ場と酒造りの歴史を感じさせる空間として整備

活用と取り組みの流れ

1～2年間

行ってみたい空間に…
・現在の活動を維持、継続、拡大
・修復体験
・蔵の中にある物の有効活用

3年後

使ってみたい空間に…
・四季に応じたさまざまな活動の展開

5年後

また行きたい空間に…
・屋敷、町との連携を強化
・住民の活動場所の一つへ

1～2年間

■展示物の整理



1～2年間

■蔵へのサイン



1～2年間

■外観の修復



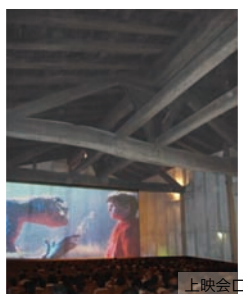
3年後…

■展示物の利用



3年後…

■奥蔵でのイベント



3年後…

■屋外のイベント



5年後…

また行きたい空間に…



将来イメージ…



旅行関連の雑誌に掲載…

まとめ

『みんなで活かすくらしっく』

■方針

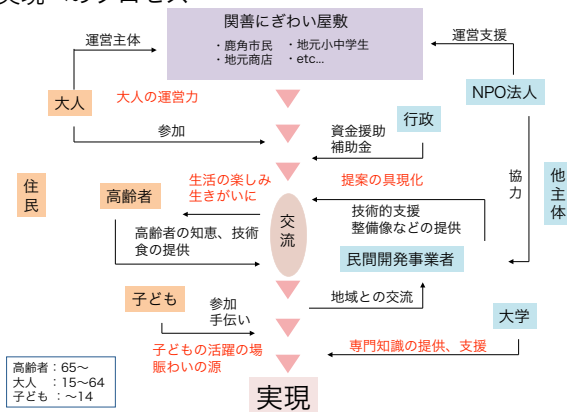
- ・まちづくりの拠点として、地域住民同士の交流の場の提供
- ・歴史的建物を活かした風景づくり
- ・保存していくための体制づくり

■提案

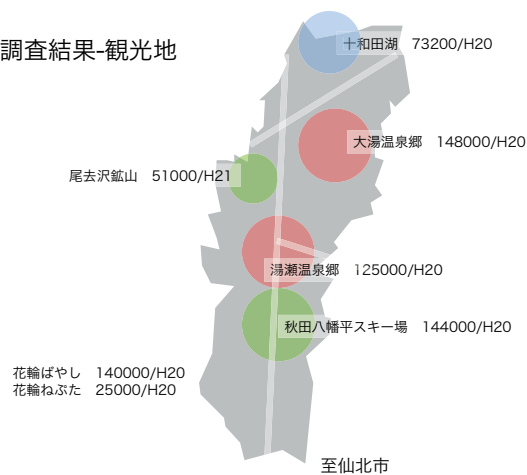
- ・奥蔵や庭の修復・活用像の提案
- ・展示物の利用
- ・奥蔵への誘導づくり



実現へのプロセス



調査結果-観光地



課題

- ・ 現代の生活の課題
 - ・ 少子高齢化
 - ・ 食への関心
 - ・ 中心市街地の高齢化
- ・ 地域課題
 - ・ 周辺に観光地があるため、関善周辺は観光として訪れる人が少ない
 - ・ まちづくり、NPOの活動拠点が整備されていない
 - ・ NPOの協力が少ないのでは？
 - ・ 町に点在する歴史的建造物が十分に活かされていない
 - ・ まちのサインがない
- ・ 建物の課題
 - ・ 補修の必要あり（漆喰塗りを手伝う）
 - ・ 保存にかかる労力、費用
 - ・ 所有者、NPO法人の意向

(3) 地域発表会

今年の夏期集中研究は、事前調査・検討と現地調査の結果を反映させるとともに、研究成果の発表を関善賑わい屋敷の NPO 理事及び地域住民の参加のもとに行った。

会場の確保、地域住民への周知には、関善賑わい屋敷の NPO 理事長である奈良東一郎氏に労をとって頂き、当日は 15 人の参加を得た。

以下、発表後の質疑応答の主な項目を記載する。

主な質疑、意見等

- ・ 道路の整備が必要だと考えていたが、整備朝市に来た観光客を奥蔵まで見に来てもらう工夫になるとは思っていなかった。
- ・ 関善の前まで来ても帰ってしまう観光客をどうしたらよいか。
- ・ 学生が「自分たちも住んでみたい」と思うまちにしていきたい。
- ・ 関善前のポスターの貼り方を工夫していこうと思う。
- ・ 時間はかかるかもしれないが、取り入れていきたい案がいくつかあった。
- ・ 人手が足りていないので、具体的に人の集め方を考えていきたい。作業を手伝ってくれる人員の集め方のストーリーがあったので参考にしたい。
- ・ 関善に気軽に出入りできるようにしたい。

鹿角花輪の歴史的な中心市街地の再生

地域発表会

鹿角市中心市街地は、かつては町家や蔵が集積して賑わいある場所でした。しかし、産業構造の転換や人口減少・高齢化が進み、かつての活気がなくなっています。一方で、地域には歴史的資源も未だ点在し、うまい利活用と市民活動により、魅力ある都市づくりへ向けた潜在的ポテンシャルを有しているとも言えます。

秋田県立大学都市アメニティ研究室では、この鹿角市中心市街地と関善賑わい屋敷を対象とし、9月2日・3日の2日間で調査研究を行いました。今回は、その結果と提案内容を地域の皆さまにご紹介し、一緒に考える機会を持ちたいと考えています。

是非、会場に足をお運びいただき、皆さまのお声をお聞かせ下さるようお願い致します。

秋田県立大学 建築環境システム学科
都市アメニティ研究室

●日時等

10月3日（日）14:00～15:30

関善賑わい屋敷（鹿角市花輪字上花輪85）

●内容

1. はじめに

- ・主旨説明 / 秋田県立大学 山口邦雄
- ・関善賑わい屋敷より

2. 調査・研究の発表 / 研究室学生

- ①町の環境班
- ②屋敷の活用班

3. 地域の皆さまとの意見交換

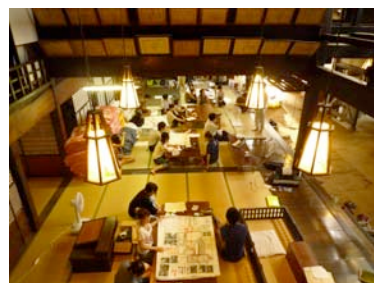
4. まとめと今後の展開に向け

●主催 : 秋田県立大学 建築環境システム学科 都市アメニティ研究室

〒015-005 秋田県由利本荘市土谷字海老ノ口 84-4

TEL0184-27-2053 問い合わせ：准教授 山口邦雄

協力：NP0 関善賑わい屋敷 TEL0186-23-7799



夏季集中研究を終えて

ご覧頂いたように、集中研究のまとめとして10月3日（日）に鹿角市花輪の関善賑わい屋敷において「夏季集中研究・地域発表会」を開催しました。

今回の地域発表会では、NP0 関善のスタッフの皆さんのみならず地域住民、行政職員をお招きし、花輪地区の住民主体のまちづくりや、地域の重要な文化資源の一つである旧関善酒店の活用法についての研究成果をポスターとパワーポイントにより発表しました。

発表後に行われた意見交換会では、大学スタッフと地元の参加者との間で、今回提案した取り組みの実現に向けた実施主体やスケジュール等について議論がされました。実現のためには、長期的な視点で、地域住民・行政・専門家等のそれぞれの役割分担を明確にし、連携した取り組みを行うことの必要性が確認されました。

参加した学生は、準備段階も含めるとおよそ4ヶ月間の長期にわたり、現地調査の企画から研究成果のまとめ作業までの一連の課題にグループで取り組むという、通常の講義・実習ではできない貴重な経験を積むことができたと思います。

研究室としては、秋以降、関善賑わい屋敷の活動に如何なる形で係わっていくかが課題として残りました。発表会で出されたように、「非日常」的な関わりに留まることなく、真の意味での「連携」の形を模索したいと思います。

教員一同



2010. 09. 03 関善賑わい屋敷にて

付録

2010 年 11 月 1 日

秋田県立大学 システム科学技術学部 建築環境システム学科

計画学講座 都市アメニティ分野研究室

〒015-0055 秋田県由利本荘市土谷字海老ノ口 84-4

TEL 0184-27-2053



合宿集合写真

発表まで終えて皆さん清々しい表情です。



初めての柿渋塗り



フィールドワーク！



各班の思いが詰まった中間発表です。



漆喰塗りのお手伝いです

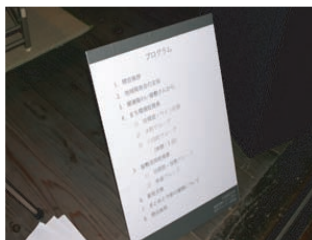
美味しい味噌たんぽも頂きました。



夕食はバーベキューをしました



たくさんの貴重なご意見
ありがとうございました。

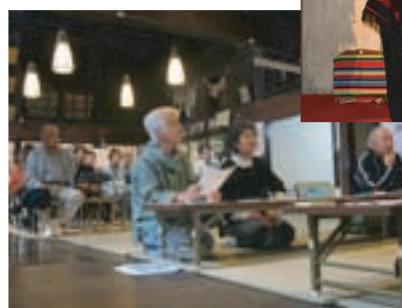


各班とも発表お疲れ様でした。



熱心に聞いて頂きました

奥蔵で開催された
コンサートも
楽しみました



3年生も頑張りました！



お昼ごはん



最後にお世話になった皆様ありがとうございました！